

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	話し合うことによって考えを進める : 感情思考から論理思考へ
Author(s)	下鳥, 照子
Citation	児童の言語生態研究 , 10 : 40 - 46
Issue Date	1980-05-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045116">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045116</a>
Right	
Relation	



# 話し合うことによつて考えを進める

## 感情思考から論理思考へ

下鳥照子

### 1. 授業案

一、日時 昭和五十四年三月五日

午後一時四十分～三時

二、児童 東京都町田市立南第四小学校五年二組

男子十九名 女子二十一名 計四十名

三、領域 音声言語

四、授業テーマ 話し合うことによつて考えを進める。

五、授業テーマ設定の理由

ことばの性格から言語活動を大きくとらえると、音声言語活動と文字言語活動という二つの領域に分けることができる。子どもの日常言語活動では、なんといっても音声言語活動が大部分を占めている。小学校に入学するとすぐに子ども達は「文字の習得」という国語の学習課題を与えられ、卒業に到るまで「文章の読解」「文章による表現」といった、文字言語活動を教えられるが、音声言語活動に関

しては、単に言語事項といった場面で扱われるだけで、教えるなどというところまでは重視されていないのが現状である。しかし、文字言語活動の指導は、国語教育における重要な部分ではあるが、部分は部分にすぎないのだから、こちらにばかり重きを置くのは、片手落ちと言えるだろう。常に、音声言語活動の指導を忘れてはならない。日常の国語の授業では、音読によつて文章を音声化したり、お互いの感想を話し合うなどの、音声言語活動が行なわれているが、それらは、ほとんど「文章読解」のための「手段」として行なわれているだけで、音声言語活動が目的になつて

発達段階で、それなりの障害を持っている。そこで今回は「対話」という音声言語活動において、五年生が持っている障害を見定めることによつて、その障害を乗り越えさせる指導を試みることにした。

いる授業はめつたにない。子どもにとつて、「文字化」「文章化」ができないということが、自由な言語活動における障害である以上、この障害を取りはらうために文字言語を習得させることは大切である。音声言語活動においては、「文字化」「文章化」という障害がない分だけ、自由な言語活動だと言えるが、子ども達は、やはりそれぞれの

とができないので、結局、中途半ばなところで「多数決」に頼ることも多い。自分の思わくでしか考えようとしなかったり、友達に対する好き嫌いにこだわったり、変なことろで同情したり、意地を張ったり、感情を切り離すことができない段階にあるのが五年生だと言える。話し合うことによつて考えを進めるには、どうしても感情と論理とを区





<p>Y K うん。 なあ。 なあ。</p>	<p>Y ひとつはさあ、Kさん、Kさん、そうしたらさあ、泣いたから、そういうことになる、あの文からいくと、泣いたから返す気になって、それで今思っていることを、あれするってことしか考えられないんじゃない。</p>	<p>K そうだよ。 I そうだよなあ。 K だって、返さないと思ってるなら、やっぱりさあ、そいつは正直じゃないんだからさあ、返さないと思ってるなら正直じゃなくなるみたいなんだからさあ、わかんない、返さないと思ってるなら、返さない。</p>	<p>B そうだよ。 I そうだよなあ。 K だって、返さないと思ってるなら、やっぱりさあ、そいつは正直じゃないんだからさあ、返さないと思ってるなら正直じゃなくなるみたいなんだからさあ、わかんない、返さないと思ってるなら、返さない。</p>
<p>○「母親はなんと言ってるのか」 返してもらったのか</p>	<p>○考えを進めるためには残しておいた方がよい意見を見つける。</p>	<p>○学習開始のあいさつ ○前時までのグループの話し合いでは、答が出なかった原因を考える。 ○話し合いの録音テープを聴いて、考えを進めるために、じゃまになっている意見を見つける。</p>	<p>○学習活動 ○前時までのグループの話し合いでは、答が出なかった原因を考える。 ○話し合いの録音テープを聴いて、考えを進めるために、じゃまになっている意見を見つける。</p>
<p>○人食いワニの問題を、論理的な思考で解答させる。</p>	<p>○本時使用の問題文を提示する。 ○前時に録音したグループの話し合いを文字化したプリントを配布する。 ○鉛筆を持ち、プリントを読み進ませながら録音テープを聴かせる。聴きながら、考えを進めるためにじゃまになっている意見に×をつけさせる。</p>	<p>○指導上の留意点 ○論理的に考えを進めるために必要な要素と、切り捨てなければならぬ要素とを整理させる。</p>	<p>○指導上の留意点 ○論理的に考えを進めるために必要な要素と、切り捨てなければならぬ要素とを整理させる。</p>

考えを先に進める。

○終了のあいさつ

○母親の解答のバターンを  
考えられるだけ掲げ、一つ一つの場合について、その正当性を問う。  
(母親の答) (結果)

返す  
返す  
返さない  
返さない

この四つのバターンから、返してもらえないという結果につながるものを消去して、最後に正解を明らかにする。

## 2. 授業記録

- C 国語の勉強を始めます。
- T 先週考えたワニの問題なんですけれど、話し合いの録音を聴いたところ、残念ながら答にたどりついたグループは一つもありませんでした。今日はぜひ答にたどりつくようにしたいと思います。この前の問題では、説明不足でわかりにくいところがあったので、問題をもう少ししていねいに作り直してみました。
- 〈問題提示〉
- C やっぱし腹がいっぱいだった。
- T 〈問題文を読む〉
- T 今まで考えていたのは、この□の中に入る母親の答だったわけね。今日の問題を読んで、これならわかったっていう人いるかな？
- C これなら？
- C 腹がいっぱいだったって入ったからわかりにくくなっ
- T 前の方がわかりやすい。腹がいっぱいだったっていうのが入るとぼくが考えているのと全然へんなななっちゃう。
- C おなかがいっぱいってのを入れたら全然考えが変わってくる。前のだと、おなかがすいてるとかすいていないとかがわからないから、食べたいが変わってくる。
- C ①今までは返そうと思ってるか返そうと思ってるか思っていることを当てたらって書いてあったんだけど、今度は「どちらかであるかを当てたら返してやる」って書いてあるところ。
- T 「どちらかであるかを当てたら」っていうことがはっきりしたから、今まで悩んでいたようなところでは、もう悩まなくていいね。
- T ②は、答を「返す」「返さない」の二者択一に絞り切れず、別の内容を持った答を考えようとしていた
- T あんなばかなこと考えていたのか。こういうことだったら、あんなこと考えなければよかったなって思ったところある。
- C 返そうと思ってるか、返さないと思ってるか、やっぱりそのどちらかだっことは思ってたんだけどね。返そうと思ってるんなら、別に問題なんか出さなくても返すんだから、で、返さないと思ってるんなら当ても返さないと思ってるんだから、腹がいっぱいだとか入ってくる、その意見が変になる。
- T はい、みんなどんどん考え出したね。この前考えた時、答にたどりつかなかったのは、余計なことこざわたり、余計なことを考えたりしていたからでしょ。いったいどんなところが余計だったのか、整理してみたいと思います。その上で□の中の答を考えたいと思うの。どんなところが原因で答にたどりつかなかったのか、今から探ってみましょう。
- T テープを流しますから、聴きながらプリントを読んで下さい。鉛筆を持って、□の中の答を考える時に、こ

これは使わなきゃいけないっていうものだけ残して、これは余分なこと考えているなっていうところに×をつけて。

Tu 調度上に人の名前が書いてあるでしょ。だから、悪いけどね、Iっていうのは頭悪いなこいつ、とかね。

C 笑い。

Tu あっ、でもこのIはなかなかいいこと言った、とかいう風にして、鉛筆で印をつけていきなさい。どうしてこんな余計なこと考えるの、こんなこと考えるからだめなんだ、というところは、ザアッって消しちゃるの。

〈話し合いの録音テープを聴く〉

T プリントの中で全然ない方がいいと思うもの。

C 一枚目の「どっちかでしょ」っていうところはいい。

C (答は「返えす」「返えさない」の二者択一である点が明らかになった。)

C これは関係ないよなあ。

C 正直だとか正直じゃないっていうところはいい方がいい。

T 正直っていうのはあった方がいいか、ない方がいいか。よくわからないんだけど、知恵自慢っていうふうに出ているんだからいらないうと思う。

C 返してもらったっていうのがあるんだから、別にいらないうじゃないかと思う。

C (母親は子どもを返してもらったという動かせない結果をきちんと押えることができた。)

T では、正直っていうのは消します。

C えっ。

C 正直っていうのは進んでいったら消えるんじゃない、たぶん。

C でも知恵自慢っていてもワニは正直っていうのはあるかもよ。

C (「たぶん」とか「かもよ」など、まだ、思いつきで答

をさがそうとしている)

C (N)でもね、もう答は返してもらったってあるんだから、やっぱりそれは当てたからちゃんと返してもらったんだから、正直、正直じゃないっていうのは、もうその答に出ているんだから、関係ない。

T では消します。

C えっ、だって。

(ここで(N)のように論理的に考えを進めるための要素を整理し始めた子と、まだ、感情思考に頼っている子との差が見られる。)

Tu 今あれを消したね。そうしたらこの辺で「だって、プツプツ：」って言っているのね。そういうのはだめ。

あれ消されたら私は考えが進まないからそれ残して下さっていう言なら先生は残してくれる。気分だけで考えていちゃ今日の勉強はできないから、おれはなんか知らんけどそういう気がするんだっていうんじゃないか。

よ。だからちやんとした理由を言ったでしょ。(N)さん、ちやんとしたことを言ったですね。その意見とは違う、ぼくの意見はちやんとした意見である。(N)さんの意見に對抗できるというのを発見して、先生に決めてもらいなさい。プツプツっていうのは気分が残っている。

それを捨てなければ今日の問題は先に進まない。頭をきれいに明るくして進めていかなきゃだめよ。難しいんだからね。さあがんばろう。

C Na3のだからっていうところから最後まで、とにかく正直っていうのが入っている人のせりふは全部切る。

T 他にこれは削った方がいいっていうところ。

C うらをかか。

T どうして？

C うらばっかりかいていてもきりもないし、別に考えを進めるためには、うらをかかとかかかないとか必要なかったの？

C はい。

T では、うらをかかとか、かかないというのが、自分の考えを進める上でぜひとも必要だっていう人いますか。

C (T)さんの考えだと必要なんじゃない。

C (T)でも納得しちゃったんだもん。最初は必要だと思っ

ていたんだけど、でも、みんなと話し合っているうちにそういう理屈はあって、それでおれ納得して、うらをかかのは必要なくなっちゃった。ワニが子どもを返したんだから、返す気があったから返すって言ったからうらをかかのは関係ない。

(うらをかかとかかかないとかいう意見の発端は、母親が返すと答えても、必ずしも子どもが返るとはかぎらないのではないかとという疑問にあると思う。が、ここで、子どもが返ったという結果を押えたことで、この疑問は片づけられてしまった。)

T 考えを進めるためには、他に残した方がいいっていうものがありますか。

C Na1の理屈っていうのはあった方がいい。どんどん考えていくのに自分の理屈を通していくとだんだん答に近づいてくる。

T 気持ちとか気分分で考えるんじゃない、ものごとの筋道で自分の考えを進めていくっていうので必要なのね。

頭の使い方っていうことで、それぞれ頭に入れておいて下さい。これだけでいいかな？

C 母が泣くというのは必要ない。

C これは残した方がいい。

C これは必要ない。母が泣いても返すと思っていれば返さないうし、返そうと思っていれば返す。

C (B)残した方がいい。でもあんまり母が泣くのでって書いてあるから、だから、ワニがそう言ったって言うんだから、だから。

Tu (「だから」「だから」と声をはり上げた

今大変おもしろかった。一生懸命くり返すから、「だ

から、だから」これ、いくら言っても同じ、小さい声で言っても大きい声で言っても同じ。大きい声で言ってもしょうがないの。静かに考えて、だからの意味をもっとはつきり考えて。

C あんまり母が泣くのでワニが言ったっていうから。母が泣くから、ワニがチャンスを与えたっていうの？

C そう。

T ぼくは残さない方がいいと思う。③くんの意見だと、前のは「あんまり泣くので母がこう言った」なんだけど、今日の「腹がいっぱいだったんで、一つ母親と知恵比べしよう」と思って、母親にこう言ったんだから、母親が泣くのでっていうのはいいから。

Tu 母親が泣くからかわいそうと言って答が出ますか。今答をどうして出すかっていうのを考えているんだろ。

C 母親がうんと泣いたからって、それは答と関係ないんだね。④君はいいことを言ったんだよ。母親が泣いたから、一つの問題を出したと、いうことがあったから残しておきたいと言ったけど、それは問題を出すことに役立ったかもしれないけど、今度は、答を出すためには、それから先、母親がいくら泣いたって、だめよね。もう母親は一生懸命考えて、どうしたら返してもらえるかって、答を考えることに一生懸命だね。そんな時に、まだわあわあ泣いていたら、おそろしい答は出なかっただろうよ。だとすると泣くということはいらない。

T 消すものと残すもののはつきり出たので先に進めましょう。さあ、いよいよ答を考えましょう。この先の考えを進めていきましょう。

Tu C これ見たら全然わかんなくなっちゃったもん。応援するよ。みんなが考えようとするのは非常に簡単だということ、今先生が書いてくれた。非常に簡単なんだよ。みんなが言ってくれたの。どっちかなんだから。形の上からだけ応援しますよ。「返す」「返

C さない」母親の言う言葉はどっちかなんだろ。あつ、そうか。

Tu そうだろう。「あなたは返す」「あなたは返さない」

C そうすると：；ワニは返したんでしょ。形の上から考えたら、母親はどっちかを言ったら返してもらったんだろ。どっちを言えば返してもらえるのか考えてみよう。返すに賛成。思っていることとどっちかだから、ワニが返すと思っていれば返す、返さないと思っていながら返って返さないんじゃない。

T Wニは返したんだよ。当てても返さないという考えは切り捨てなければだめでしょ。

C 母親が返すって答えて、ワニが返すと思っていたから子どもが返ったんじゃないの。

T (母親が返すと答えて、子どもを返してもらったという場合しか考えていない子が多い。)

T 知恵があったから返したんだね。母親がいい知恵を出したから返したんでしょ。その知恵を考えなきゃね。返すの方だと思う。返してやるって言ったから返すんじゃないかな。

C 返さないの方だと思う。理由は、ワニは母親と知恵比べをしようと思っていたんだから、どうせ当らないと思っていたから当らなかつたら返さないという約束だから。

Tu (まだ論理的思考に入らず、思いつきに留まっている) さっき手伝ってあげたでしょ。形の上で考えると、お母さんは「ワニさんあなたは返すつもりだ」「ワニさんあなたは返さないつもりだ」このどっちか言えないのよ。どっちかを言ったら、子どもは返ってくるか、返ってこないか、どっちかになるんだよね。ところがもう答は出ている。返してもらったのよ。そうすると、どっちを言った時に返るか、そう考えればおしまいじゃないか。どっちを言ったら返るか、こっちを言ったら返るか、こっちを言ったら返らないか、それ

だけ考えていけばいいんじゃないの。君がいろんなこと考えすぎているんじゃないかな。形の上から考えたら、お母さんが、ぼつと言っていると返ってきた。そうするとその答は、たまたま正しかった。なぜ正しいんだろうかっていうことだ。返すって言った時にはどうなるか、返さないって言った時にはどうなるか、一つ一ついいいに、ノートに鉛筆持って書いて勉強だ。

C お母さんが、返すと言って返してもらったか、返すと言って返してもらわなかったか、返さないと言って返してもらったか、返さないと言って返してもらわなかったか、このうちのどれか一つなんだろ。だったら、返してもらったんだから。

T お母さんは返すと言ったから返してもらったという人は？

Tu (三十七名挙手) お母さんは返さないと言った。そうすると返してもらったという人？

Tu (三名挙手) 三十七対三だね。もらえないのは考えなくていいね。考えなくちゃいけないかったのは、この線かこの線(返すと答えて返してもらった、と、返さないと答えて返してもらったのどちらか)だったんだな。これからは楽しみだね。三十七名の人が正しいか、三名の人が正しいかということになるね。

T 返すと言って返してもらったという人はなぜこちらを選んだか。

Tu それを考える時にね、そちらは、自分はこの方がいいという風に考えたんだろ、簡単だろ。これが正しいということ、これを主張するためには、たった二つしかないんだから、これは誤っているというのをいせばいいんだね。こちらに主張している人は、こちらの誤りを主張すればいいんだね。三十七人の人は、こちらではだめだ、三人の人はこちらはだめだ、と、言いなさい。頭はこう

やって使うんだよ。

C やっぱり、ワニが思っていることを当てろって言うてるんだから返さないと思っていたら返さないんじゃないの。ワニは思っていることを言えていうんでしょ。

T (自分の主張を肯定する立場から一歩も出られない)

T 返さないって言ったらもう返してもらえないの？

C そう。

C 人食いワニっていうのは、つかまえるってことめったにないし、そのワニは腹がいっぱいで返す気だったんだから、返すって言って。

T (自分の組み立てとは違うもう一つの論理を考えようとしていない)

Tu それで考えていたら切りがないから、答は二こしかないんだから、こっちが誤りだっていうことを言いなさい。

C 返すって思うなら、最初からつかまえない方がいい。

C やっぱりワニは返すと思ってるんだから、返さないと言ったら余計に怒って、自分のプライドを傷つけられるから。

Tu みんな余計なことばかり考えている。おじさんが一生懸命整理してあげたのに、これだけ考えればいいんだ

C よって言っているのに、やれプライドが高いの、どうのこうの、そんなこと関係ないのよ。今までのみんなの考え方は授業と同じ考え方をしていると思うの。私は正しいんだ、私の言っていることは正しいんだ。そういう生活をずっと続けて来たのよ。だけでも、もうこれから六年生なんですよ。自分は正しい正しいって言ったって人は認めてくれないの。正しくない人を見て、あれは正しくない、だから私の方は正しいんだと言え、人はわかってくれるの。今はたった二つのことを考えればいいんだよ。君達は、どちらが正しいんだときかれたら、こちらが正しくないんだと言った方が、力を入れて一生懸命これが正しいんだって言わな

くても、人はそうだねって言うてくれる。だから、今三十七人の人は上をとったけども、そういうとり方はだめなのよ。上をとったんだしたら、下はだめということがわかってこなくちゃいけないの。下をとった人は上がだめだから下へこなくちゃいけないの。それを言いなさい。まだなんにも言わないよ。

C 返さないって言ったら、ワニが本気になって返してくれない。

Tu 三人の方から言ってもらいましょう。

C ⑩返すと答えるとワニは、本当は返さないと思ってい

Tu った言うて、それでもうだめ。

T 一貫の終り。

Tu いいこと言ってくれたよ。⑩さんは、こちらはだめだ

C と、なぜかというて、返すと母親が言うてしますよ。

Tu そうすると、ワニが、いいえ、私は返さないと思っ

C いたのよ。

C うそつくの？

Tu うそつくの？

C うそつくの？

Tu うそつくの？

C 言ったら、子どもは返ってくるんですか。

Tu 返ってこない。

C 返ってこないね。これで一つ片ずいた。

Tu ⑩返さないって答えれば、ワニが本当は返そうと思っ

C いたと言って返さなかつたら。

Tu その先はどうなるのかな。

C ⑩おかあさんが返さないって答えて、それであっていた

Tu ら子どもを返してもらえる。

C ていねいに。一つ一つを。一番上は、返すって言う。

Tu そうするとワニは返さないと言う。そうしたらそれは

C おしまい。その次、返さないと言ったら、ワニは返す

Tu と言った。その場合は返すと言うんだから返ってくる

C んだらう。返さないと言ったら、そうだよ私は返さな

Tu いよって言ったら、と、そこんところがはっきりして

C いないのね。

C あっそうか。

C あっそうか。

Tu 返さないと言ったらその子どもは返るんですか返らな

C いんですか？

C 返る。

C あっわかった。

Tu どちら？

C 返す。

Tu 子どもは返ってくるんだね。なぜ？

C わかった。はい。

Tu じゃ、この辺で授業はおしまいにしましょう。

C えっ。

Tu もったいない。まだ今考え方がやっとわかったところ

C だもの、このままにして家へ帰って一生懸命考えてく

Tu るんだよ。どれがどうなってどうなるかって。

C 先生、おれ訂正する。

Tu みんなわかるんですよ。たった二つのどっちかなんだ

C から。これじゃない、これじゃないってやっていけば

Tu 最後に残っていくんだから、みんなが考えられる、絶

C 対みんなが正解が出るはずだから、今日帰ってよく

Tu 勉強するんですよ。この次自分でちゃんと説明ができ

C るように考えてくるんだよ。

C これで国語の勉強を終わります。

T (始めての経験とはいえ、感情やイメージを切り捨てて

C 論理的に考えを進めることにこんなに苦しむとは予

Tu 想外だった。しかし、今回の授業で子ども達は論理的

C な考え方を習得しようである。六年生になってから

Tu も、問題にぶつかると、「感情で物を言ってもだめだ

C よ」「ほらナイルワニの時みたいになさなきゃ」など

Tu とつぶやく子どもが多かった。)

T 下鳥(東京・南四小教諭)

Tu 上原教授